

「次世代ターゲットスポーツの育成支援」 令和元年度 ターゲットスポーツの新規選定について

日本スポーツ振興センター（JSC: JAPAN SPORT COUNCIL）は、「次世代ターゲットスポーツの育成支援」（以下「本事業」という。）において、令和元年度事業の実施に伴い、新たに 2024 年オリンピック・パラリンピック競技大会（パリ）向けのターゲットスポーツを選定し、5月1日付けで事業を開始いたしました。

記

■新規選定ターゲットスポーツ

1. 体操・新体操（女子）※1
2. 卓球（男子）※1
3. フェンシング（女子フルーレ・女子エペ）
4. バドミントン（男子）※1
5. テコンドー（男子 58kg 級、女子 49kg 級）
6. パラトライアスロン（男子肢体不自由・男子視覚障害）
7. 車いすテニス（男女）※2

※1 前年度まで 2020 大会向けのターゲットスポーツであるが、今回 2024 大会向けのターゲットスポーツとして新たに選定

※2 車いすテニスは、前年度まで女子が 2020 大会向けのターゲットスポーツであるが、今回 2024 大会向けのターゲットスポーツとして、男子を加え、新たに男女で選定

■「次世代ターゲットスポーツの育成支援」とは

- 本事業は戦略的強化事業であり、我が国のアスリートが将来、新たにメダルを獲得する可能性のある競技種目をターゲットスポーツとしている。これらのターゲットスポーツが作成する「次世代アスリート育成・強化プラン」に基づく集中的な育成・強化活動を推進する。これらの活動を通じてメダル獲得競技種目の育成・開発を図り、日本の国際競技力強化に寄与する。
- 2024 年オリンピック・パラリンピック競技大会（パリ）および 2026 年オリンピック・パラリンピック冬季競技大会に向け、育成・強化に関する戦略立案、実施、検証・評価、改善といった一連の取組み（PDCA サイクル）を実施し、「MPA※3 数の最大化」「2024 年以降を見据えた、新たな育成・強化システムの確立」を目指す。
※3 メダルポテンシャルアスリート：世界選手権等において第 8 位以上の入賞実績を有するアスリート
- 本事業は平成 26 年度文部科学省受託事業「2020 ターゲットエイジ育成・強化プロジェクト（ジュニア・ターゲットスポーツの育成・強化）」から始まり、平成 27 年度「ジュニア・ターゲットスポーツの育成・強化」、平成 28 年度「次世代ターゲットスポーツの育成・強化」、平成 29～30 年度「次世代ターゲットスポーツの育成支援」を経て、今までに 15 ターゲットスポーツに対し活動を実施してきた。平成 30 年度末において、2020 大会向けの 12 ターゲットスポーツへの支援を終了し、新たに 2024 大会向けの 7 ターゲットスポーツを加え、事業を推進する。

表. 平成 26 年度から令和元年度に選定したターゲットスポーツ一覧

	2020 大会向け	2024 大会向け
平成 26 年度	○卓球(男子) ○テニス(男女) ○陸上競技・競歩(男女)	○水泳・競泳自由形(男子) ○トライアスロン(女子) ○ライフル射撃(男女)
平成 27 年度	○体操・トランポリン(男子) ○バドミントン(男子)	○自転車・トラック(女子)
平成 28 年度	○水泳・競泳自由形短距離(女子) ○体操・新体操団体(女子)	○車いすテニス(女子)
平成 29 年度		○ラグビー7人制(女子) ○空手(男女) ○5人制サッカー(男子)
平成 30 年度	平成 30 年度をもって、2020 大会向け支援終了	
令和元年度		○体操・新体操(女子) ○卓球(男子) ○フェンシング(女子フルレ・女子エペ) ○バドミントン(男子) ○テコンドー(男子 58kg 級、女子 49kg 級) ○パラトライアスロン(男子肢体不自由・男子視覚障害) ○車いすテニス(男女)

事業概要

Vision メダルポテンシャルスポーツの最大化

Mission ①MPA (メダルポテンシャルアスリート) の最大化
②育成・強化システムの確立

